

SAMPLE



RIM INTELLIGENCE CO.

フェアな価格 確かな信頼

液体バイオ燃料

Liquid Biofuels

試読 >

お申し込み >

☆RIM LIQUID BIOFUELS INTELLIGENCE WEEKLY

★No. 18 Mar 5 2025

Copyright (C) 2025 Rim Intelligence Co. All rights reserved.

—TOKYO, 11:00 JST Mar 5 2025<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

◎お知らせ

○エネルギー通信2月号の発行と「立ち寄りセミナー(オンデマンド)」のお知らせ

リム情報開発は20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』23号を発行しました。今号では、政府が2月18日に閣議決定した第7次エネルギー基本計画の内容を整理したうえ、日本が重視していくことが示されたクリーンエネルギーの最新動向をまとめました。エネルギー通信はWEBで閲覧いただくことができます。お申し込みはこちらから：

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/nl/>

また、エネルギー通信の内容を凝縮した「立ち寄りセミナー」を開催します。コロナ禍に始まった立ち寄りセミナーがオンデマンド形式で復活します。今号のポイントを整理しわかりやすく解説いたします。セミナーの詳細や視聴のお申込みはこちらから：

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/seminar20250219/>

○メソドロジー公開

リム情報開発は2月5日、液体バイオ燃料のアセスメントメソドロジーを当社ホームページ上で公開しました。下記URLからご覧になれます。これに伴い表紙上の<Assessment Closing Time>も11時に変更しました。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/assessment/lbf/>

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス固体(週刊)	液体バイオ燃料(週刊)	
デイリーデータ	Rim Data File	
クリーンエネルギー(週刊)	CROSS VIEW 軽油/重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp



◎FOB Ethanol physical										
OFOB Brazil Anhydrous Ethanol										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
Apr	-10	540-570	-10	-13	679-709	-13	-1,000	80,900-85,400	-1,000	
May	-10	525-555	-10	-13	663-693	-13	-900	79,100-83,600	-800	
Jun	-	520-550	-	-	653-683	-	-	77,800-82,300	-	
OFOB Brazil Hydrous Ethanol										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
Apr	-10	505-535	-10	-13	635-665	-13	-1,000	75,700-80,200	-1,000	
May	-10	490-520	-10	-13	619-649	-13	-1,000	73,800-78,300	-900	
Jun	-	485-515	-	-	609-639	-	-	72,600-77,100	-	
OFOB US Gulf Ethanol										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
Apr	-40	455-485	-40	-49	573-603	-49	-5,500	68,200-72,700	-5,400	
May	-35	465-495	-35	-47	583-613	-47	-5,000	69,500-74,000	-5,000	
Jun	-	465-495	-	-	587-617	-	-	70,000-74,500	-	
Exchange rate (TTS yen/\$ as of Mar 05) 149.88										

◎Estimated CFR Ethanol physical										
OBrazil-Northeast Asia (Anhydrous)										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
May	-20	610-640	-20	-26	766-796	-26	-2,400	91,400-95,900	-2,400	
Jun	-20	595-625	-20	-25	751-781	-25	-2,300	89,600-94,000	-2,400	
Jul	-	590-620	-	-	740-770	-	-	88,300-92,800	-	
OBrazil-Southeast Asia (Hydrous)										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
May	-20	575-605	-20	-25	723-753	-25	-2,400	86,200-90,700	-2,400	
Jun	-20	560-590	-20	-25	707-737	-25	-2,400	84,300-88,800	-2,300	
Jul	-	555-585	-	-	697-727	-	-	83,100-87,600	-	
OUS Gulf-Northeast Asia										
	In \$/KL			In \$/MT			In Yen/KL			
May	-55	530-560	-55	-69	666-696	-69	-7,600	79,400-83,900	-7,600	
Jun	-50	540-570	-50	-65	677-707	-65	-7,200	80,700-85,200	-7,200	
Jul	-	540-570	-	-	681-711	-	-	81,200-85,700	-	
Exchange rate (TTS yen/\$ as of Mar 05) 149.88										

◎Ethanol Benchmark						
OJapan Ethanol (in Yen/kl)						
	Jan	Dec	Nov	Oct	Sep	Aug
ETBE	109,729	108,301	117,199	118,434	115,992	118,280
Ethanol	-	100,093	-	-	97,821	-
OBrazil & US						
			Feb 16 - Feb 22			
UNICA Sao Paulo Hydrous Ethanol (R\$/litre)			4.19			
			Feb 24 - Feb 28			
USDA Illinois Ethanol (\$/gallon)			1.67			
Exchange rate (TTS yen/\$ as of Mar 05) 149.88						

◎エタノール

【FOB ブラジル】

期近積みは昨年 12 月末以来下げ

エタノールの FOB ブラジル相場は無水エタノールが期近 4 月積みで 1 キロリットル (kl) あたり 540~570 ドル、含水エタノールが 505~535 ドルと、いずれも先週から 10 ドル下落した。期近積みが下落するのは昨年 12 月末以来。

外国為替市場でブラジル・レアルが対米ドルで下落が進み、ドル建ての FOB 価格を押し下げた。ただ、レアル建てでは値動きは乏しい。カーニバルの休暇シーズンで、現物の商談が閑散としているためだ。相場の先行きについて、市場では「サトウキビの収穫が始まるのは 3 月下旬から 4 月上旬あたりで、それまでは供給が少ない。相場が天井を打ったとはまだ見ていない」(外資系アナリスト)との強気の声が根強い。

その一方で、「相場の強地合いが変わってきた雰囲気は出てきている」(日本企業)と弱気の声も聞かれ始めている。サンパウロ大学ルイスデケイロス農科大学応用経済研究所 (ESALQ) のエタノールの国内相場も先週末時点で、498.81 ドルとほぼ 1 カ月ぶりに 500 ドルの節目を割り込んだ。

ブラジル、新収穫年度は砂糖比率上昇か

市場関係者の視線が向かうのが、サトウキビの新しい収穫年度である 2025~26 収穫年度 (25 年 4 月~26 年 3 月)におけるエタノールの供給動向だ。

サトウキビから砂糖ないしエタノールに振り向けられる比率は、現在の 24~25 収穫年度はこれまでのところ砂糖 48.2%に対し、エタノール 51.8%で推移している。新収穫年度では、サンパウロ州の山火事の影響で砂糖の供給が伸び悩んだ今収穫年度の反動で、砂糖の比率が高まるとの見方が市場では多い。

ある市場関係者は「新収穫年度は今年度よりも砂糖の比率は高まるのは固い。砂糖の比率は 23~24 収穫年度の 48.9%が一つの目安になるだろう」との見方を示す。ただ、「ブラジルのカーボクレジット (CBIO) の普及で、製糖会社にとって CBIO の収入があるエタノールへの振り向けが魅力的になっているのも事実。砂糖への振り向けが増えても、比較的高か

った 12~13 年度の 49.5%にまでは届かない」とも指摘する。

期先では、無水エタノールの 5 月積みが 1kl あたり 525~555 ドルと先週から 10 ドル下落、6 月積みは 520~550 ドルとなった。同様に含水エタノールも 5 月積みが 490~520 ドルと同 10 ドル下落、6 月積みは 485~515 ドルとなった。先物の限月間格差を反映し、無水、含水ともに 4 月積みと 5 月積みとの価格差は 15 ドルのバックワーデーションに、4 月積みと 5 月積みは 5 ドルのバックワーデーションにそれぞれなった。

CBIO は下げ

エタノールの生産者に付与される CBIO 価格は 1CBIO (1 トンの二酸化炭素削減に相当) あたり 75 レアル程度と先週から 3.8%下落した。CBIO の購入義務者からの調達も鈍いほか、供給もますますの水準で、需給が緩めの状態にある。

ブラジル B3 取引所によると、供給を示す CBIO の新規預託量は 2 月に 344 万 CBIO と前月から 9.7%減ったものの、前年同月から 5%増え、3 カ月連続で前年実績を上回った。CBIO はバイオディーゼルなどエタノール以外のバイオ燃料からも組成されるほか、「システム登録までに多少タイムラグがあることもあり、CBIO の供給はエタノールほど季節変動が大きくはない」(外資系アナリスト)。

【FOB 米国】

トウモロコシや国内相場の急落が弱材料

エタノールの FOB 米国ガルフ相場では期近の 4 月積みが 1kl あたり 455~485 ドルと先週比 40 ドル急落した。週明けの原油相場が軟化したうえ、原料のトウモロコシ相場や国内エタノール相場も急落したため、FOB 相場が下げ圧力に晒されている。

米エネルギー情報局 (EIA) が 2 月 26 日に公表した米国の燃料用エタノールの週間輸出量は、直近 2 月 21 日までの週で日量 11 万 5,000 バレルと、その前の週から 16.7%減少した。

また、同期間のエタノール生産量は日量 108 万 1,000 バレルと、前週から 0.3%の微減。同期間のガ

ソリン混合用のエタノール使用量は日量84万6,000バレルと、前週比0.5%と小幅に減少した。2月21日時点のエタノール在庫は2,757万1,000バレルと前週から5.2%増加した。

3日の米国シカゴ先物相場は、4月がガロンあたり1.6825ドルで引けた。2月24日に比べ、同16.25セント下落した。5月の引け値が同1.715ドルと2月24日比15.25セント安。6月が同1.7275ドルで引けた。

米国産の5月積みは465~495ドルと先週比35ドル安。6月積みは465~495ドル。先物市場の月間格差を反映し、5月積みが4月積みを10ドル上回っている一方、6月積みが5月積みと同水準となっている。

米国の12月輸出量が前月から増加

EIAの統計によると、米国の2024年12月のエタノール輸出量は、463万5,000バレルと、前月の447万2,000バレルから3.6%増加した。このうち149万6,000バレルがカナダ、76万4,000バレルがオランダ、64万4,000バレルがイギリス、33万バレルがインド、27万9,000バレルがフィリピンに仕向けられた。

米トランプ政権のカナダ関税引き上げ、影響注視

米トランプ政権は3月4日、カナダとメキシコからの輸入品の対し25%の追加関税を発動した。カナダは米国にとって3割強のシェアを占める最大のエタノール輸出先。仮にカナダが対抗措置で米国産エタノールの輸入関税を引き上げれば、米国産輸出に影響が出かねない。

日本企業は状況を注視しているとしつつも、「仮にカナダが米国産エタノールの関税を引き上げても、足元のブラジル産との価格差なら、関税を加味してもまだ米国産とそんなに水準は変わらない。影響は限定的ではないか」との見方を示した。

エタノールのRINは急落

米国産バイオ燃料の環境価値を示す再生可能識別番号(RIN)は大幅安。エタノールの環境価値にあたる

D6 価格は1RINあたり(1ガロンのエタノールに相当)0.69ドル前後と、先週から15%下落した。

RIN 価格と正の相関関係があり、バイオディーゼル原料の大豆油と、低硫黄ディーゼル(ヒーティングオイル)の値差である「BOHO スプレッド(bean oil/heating oil spread)」は2月下旬から穀物安による大豆油の下落に伴い、縮小している。

このほか、欧州の裁判の影響を指摘する向きもある。欧州一般裁判所は2月27日、欧州連合(EU)が持続可能な航空燃料(SAF)に使う原料にエタノールなど作物由来のバイオ燃料を除外したことに対して、バイオ燃料生産者が見直しを求めた訴えを棄却した。

エネルギー・金属鉱物資源(JOGMEC)担当調査役の中島学氏は「欧州のSAF向けにエタノール輸出拡大への期待が裏切られ、D6の値下がりにつながった可能性はある」と指摘する。エタノールなどバイオ燃料の輸出業者はRINの購入が義務付けられており、輸出が減るとRINの需要も減る。

【CFR アジア】

CFR 相場は大幅下落

FOB 価格と船賃から推計したCFR相場は、期近の5月渡しがブラジル・サントス~東南アジア間で1klあたり575~605ドル(含水エタノール)と先週から20ドル、米国ガルフ~北東アジア間は530~560ドルと同55ドルそれぞれ大幅に下落した。FOB価格と運賃相場の下落を受けた。

MR型タンカーの用船市況は下落。米国ガルフから韓国向けのエタノール25,000~30,000トンの引き合いが1klあたり70~80ドルで成約された。

米トランプ政権の関税政策が荷動きの鈍化を招いている。市場関係者によると、米国産農作物の原料需要を高めるため、バイデン前政権が決めた廃食油(UCO)の輸入に対する優遇措置を撤廃。中国からの海上輸送にブレーキがかかっているという。

就任以来、矢継ぎ早に関税政策を打ち出しているトランプ大統領の動きに対し、市場参加者の多くは警戒感を強めている。同政策により中国関連の荷動きが数か月にわたり停滞する可能性が指摘されている。

一方、昨年までの好調な海運市況を受け、新造船の発注残は積み上がり、中古船は解撤を避け延命措置をほどこして利用されるなどフリート数は確実に積み上がっている。輸送需要の減退と、船舶供給過剰が相場を強く下押ししている。

【国内市況】

ETBEの1月輸入は減少

財務省の1月貿易統計によると、ETBE(エチル・ターシャル・ブチル・エーテル)輸入量は15万2,753klと前月から12%減少、輸入価格は1klあたり109,729円と前月から1%の上昇だった。燃料用のエタノールの輸入はなかった。

◎用語の説明

UCO=廃食油、UCOME=廃食油メチルエステル、SAF=持続可能な航空燃料、HVO=水素化植物油、FAME=脂肪酸メチルエステル、SVO=植物油

◎UCO(Used Cooking Oil)

◎FOB Japan

	Change#	In \$/mt		Change#
Mar	-	825.00	- 875.00	-

◎FOB China

	Change#	In \$/mt		Change#
Mar	-	1,020.00	- 1,040.00	-

--Note: #from the previous week

◎廃食油市況(国内再生油脂)

地域	前週比	3月市況		前週比
北日本*	-	95.00	- 100.00	-
東日本**	-	95.00	- 100.00	-
西日本***	-	95.00	- 105.00	-

--Note: 円/kg *北日本:北海道、東北 **東日本:関東、中部 ***西日本:関西以西

◎廃食油

【日本積み市況】

先行き不透明感強く、相場は横ばい

廃食油(UCO)の日本積み相場はトンあたり825~875ドル。前週からもち合った。

依然としてバイオ燃料用途の廃食油需要は強く、工業用を含めた円ベースの輸出価格は東日本で100円以上、西日本で105円以上と先週から大きな変化はなかった。ただ、日本市場での廃食油の確保はさらに競争が激化しており、ここ数年の新規参入業者ではこれ以上の価格で調達に動いているケースも散見されるという。

とくにスーパーやコンビニエンスストアなどの流通業、外食産業から発生する廃食油を商社や需要家

が直接買い付ける商流がさらに増えていることが背景にある。

一方、足元の為替が150円前後と2月と比べて5円程度円高で推移していることや、トランプ政権の関税引き上げなどの政策を受け、欧州や中国の輸出相場は2月以降1,000ドルを超える水準の取引も伝えられるが、西日本からの主要輸出先である韓国向けでは「この水準で取引する動きには至っていない」(商社)。

他方、SAF用途向けでは国内外の航空会社からの需要が弱いため、「これらの取引も盛り上がりを欠いている」(油脂原料卸業者)。

日本市場の相場に一定の影響力を持つ飼料用の2号油は4~6月価格の改定を控えており、パーム油の

相場が強いとあって、2号油の価格も上昇する可能性もある。強弱材料が交錯しているなか、新規材料待ちとしている市場関係者が大半だった。

【中国積み市況】

市況は底固い

UCOの中国積みの相場は、トンあたり1,020～1,040ドルと先週と同値で推移した。供給の引き締まりが解消できず、相場は堅調な様子だ。このなか、輸出市場では具体的な取引が聞かれにくい状況。中国では旧正月の連休期間に大方の飲食店が休業に入っていたため、UCOの回収難の影響がいまだに続いている。また、国内で2社のSAF製造メーカーによるUCOの調達が旺盛なことも、需給の引き締め感を一段と強めている。このなか、市況の強さを好感し、売り惜しんでいるサプライヤーが依然として見え隠れしている。

また、国内市況が続伸するなか、品質の条件が厳しい輸出品の販売が鈍っていることもある。国内価格は続伸しており、先週からさらに100元ほど上昇し、足元でトンあたりドル換算値1,060ドル近辺を形成している。

UCOMEの取引では、原料UCOの市況高を背景に、売り手は唱えをさらに引き上げている。4月下旬華東積みの3,000トンに対し、売唱えはFOBベース1,250ドルで聞かれる。現段階では成約に至っていない。

【国内市況】

3月価格は横ばい

再生油脂(東日本2号油)の3月価格は、キログラムあたり95～100円で、前週から変わらず。円高進行などの弱材料があったものの輸出価格が2月から横ばいとなったことに加え、「需給面を含めて前月から特段、変わったことはない」(複数の市場関係者)という。また、コスモ石油堺製油所でSAF工場の稼働開始を控え、回収業者の間では様子を見たいという事情もあるようだ。稼働が好調にいけば廃食油全体の需要も増えるため、今の段階で価格を変える必要性は薄い。

また、4月以降の飼料向け市場が現段階では見通しづらいことも、慎重姿勢を堅持する理由のようだ。今冬は鳥インフルエンザが高水準で発生した半面、寒さのためエサの需要は堅調だったとの声も聞かれた。一方、気象庁の暖候期予報で今年の夏は気温が高めと出ていたことで、4～6月期の飼料向けが落ち込むのでは、など様々な見方が出ている。

西日本は、同95～105円で前週の水準を維持した。東日本と同様、前月から基調が変わっていないことや、コスモ石油のSAF製造の営業運転開始が控えているため、多くの関係者が様子見姿勢を堅持している。一方、国内でもSAF製造が本格化するなかで廃食油への関心が高まっており、新規に油の供出者を探す動きもみられ、「品薄感がさらに進み、争奪戦になっている」(商社筋)との指摘があった。

北日本は、同95～100円で変わらず。総じて様子見姿勢が強い。また、今冬は雪の影響で廃食油の回収がしづらかったとの声が聞かれた。ただ、春になり配送面の不具合も解消されることで、回収頻度が増えるとの声も聞かれた。

◎Neat SAF					
Area	Change#	Mar		Change#	
FOB Singapore	-	1,600.00	-	1,700.00	-
FOB China	-	1,500.00	-	1,550.00	-
FOB ARA	-	2,000.00	-	2,100.00	-

--Note: \$/mt, #from the previous week

◎HVO					
Area	Change#	Mar		Change#	
FOB Singapore	-100.00	1,700.00	-	1,800.00	-100.00
FOB China	-200.00	1,500.00	-	1,600.00	-200.00
FOB ARA	-	1,900.00	-	2,000.00	-

--Note: \$/mt, #from the previous week

◎SAF・HVO

【SAF】

シンガポール3月積みニート SAF 価格はトンあたり1,600~1,700ドルと先週から横ばいとなった。アジア域内の SAF の引き合いは限定的で、相場は上伸力を欠いた。

中国3月積みニート SAF 価格はトンあたり1,500~1,550ドルとなり先週から横ばい。

欧州3月積みニート SAF 価格はトンあたり2,000~2,100ドルとなり先週から横ばい。韓国ではSK エナジーが1月積み品を欧州に販売したが、その価格はCFR ベースで2,000ドル程度だった。これは精製コストから鑑みると割安な水準という。同社による追加の輸出はみられない。

【HVO】

シンガポール積みの HVO 価格は、3月積み FOB でトンあたり1,700~1,800ドルで先週から100ドルの下落となった。買い気が限られていることが下押し要因となった。

中国積みの HVO 価格は、3月積み FOB でトンあたり1,500~1,600ドルとなり先週から200ドル切り下がった。引き合いが乏しい一方、中国ではプラントの増強が進んでおり需給が緩んでいる。中国の製造会社1社は1,600ドル台で売り唱えている一方、買い手からは1,300ドル台の唱えを提示されるケースが多い。しかし、精製コスト上、販売可能な水準は

1,500ドル台まででとっており、成約に至りにくいようだ。

欧州積み HVO 市況は3月積みガトン当たり1,900~2,000ドルと変わらず。

【トピックス】

イギリス政府は3日から、SAF 製造業者の財務リスクを軽減するための制度について、一般からの意見を募る「パブリック・コンサルテーション」を開始した。既存ジェット燃料への SAF 混合が2025年から義務化され、SAF の安定供給が求められるなか、政府としても制度面から製造業者を支援する狙いがある。今回は専門家にとどまらず、広く一般からも意見を聞く機会とする。

政府の専用サイトから質問に答える形式で、回答期日は3月31日。「事前に政府が示したスキームに賛成か、反対か」、「他の支援策があるか」、「支援対象となる SAF 製造業者の定義に同意するか」といった質問に答える。

政府案によると、既存ジェット燃料の供給業者に課税することで、SAF 製造業者への支援金を確保する。賦課金は同国内でのジェット燃料の供給シェアに基づいて決定するという。

試算では、同政府が掲げる2035年時点での SAF 供給目標を達成するには、同年には年産10万トン規模のプラントが6基程度必要となる。ただ、将来の

SAF 価格は不透明であることから、十分な製造能力が確保できない懸念があるという。

◎B5 軽油 (FAME 仕様)

地域	前週比	3 月市況		前週比	
北日本*	-	195.00	-	205.00	-
東日本**	-	165.00	-	175.00	-
西日本***	-	165.00	-	175.00	-

--Note: 円/kl *北日本：北海道、東北 **東日本：関東、中部 ***西日本：関西以西

◎バイオディーゼル燃料

全国	前週比	3 月市況		前週比	
FAME	-	230.00	-	280.00	-
HVO	-	400.00	-	450.00	-

--Note: 円/kl FAME:脂肪酸メチルエステル HVO:水素化植物油

◎バイオディーゼル

【国内動向】

軽油に FAME 由来のバイオディーゼル燃料 (BDF) を 5%混ぜた「B5 軽油」価格は前週から横ばい。前週時点で生じた弱材料がいったん出尽くしている。運賃抜き価格は現在、北日本が 195～205 円、東日本が 165～175 円、西日本が 165～175 円。

東日本、西日本では大手生産者らが 165 円まで売り込んでいる半面、市場では「170 円超えで受注できている」(販売業者)との声もちらほら。おおよそ 170 円を挟んだところで市況が二分されている。目先は年度末を迎え、新規取引は総じて静か。最近も環境対策を急ぐ需要家の導入が点在するものの、基本的には需要家の燃料関連予算が一新する新年度の取引に商機を見出す市場関係者が多い。現在の営業活動は新年度に向けた種まき期間と位置付ける声もある。

BDF100%の B100 相場は前週並み。FAME 由来が 230～280 円、HVO 由来が 400～450 円で膠着している。年度末を迎えて商況は静か。期末の公共工事向け需要もおおむね当初計画の範疇にとどまるという。市場関係者によると、FAME は値上げの手掛かりを探る生産者もいる。原料の廃食用油市況が堅調なためだ。ただ、FAME は一般軽油対比で市場規模が小さく、ユーザーも限られる

ことから、現段階では上値を追いきれずにいるという。

【業界動向】

三菱商事エネルギーと熊本市に本社を置く東洗 HD はバイオエネルギー九州を設立した。バイオエネルギー九州は、同市でバイオディーゼル (BDF) 製造販売事業を手掛ける熊本いいくに県民発電所から事業と関連資産を取得し、BDF 製造販売事業を展開する。今後もバイオエネルギー九州と熊本いいくには県内の廃食用油回収などで協業する方針だ。BDF 精製能力や新会社の株主比率などは非公開としている。

同社が製造する BDF は「リーゼル (ReESEL)」と呼ばれる超高純度燃料。蒸留精製処理でエステル成分純度を 99.9% にまで高めるほか、蒸留精製後も静電気式の燃料浄化工程を経ることで市販の一般軽油より清浄度が高まるという。トンネル工事や道路建設工事への納入など、複数の実績がある。

【小売動向】

直近の一般軽油小売価格を見ると、3 月 3 日現在、全国平均は 1 リットルあたり前週比 0.1 円安の 163.9 円となった。12 月と 1 月に補助金

の減額を受けて小売価格は上昇したものの、需要減退を織り込み値下がり傾向を示している。

地区別では、北海道が前週比0.4円安の162.1円、東京が同0.6円安の165.2円、愛知が前週

並みの158.3円、大阪が同0.9円安の162.1円、熊本が同0.4円高の159.6円。

◎Bio-bunker Premiums (\$/mt)						
Port/Location	380cst		VLSFO		LSMGO (LSMDO: Japan)	
	Low - High	Change	Low - High	Change	Low - High	Change
Rotterdam B30	239.00-242.00	+26.00	249.00-252.00	+29.00	627.00- 637.00	+35.00
Zeebrugge B30	357.00-360.00	+24.00	345.00-348.00	+25.00	738.00- 748.00	+30.00
Gibraltar B30	373.00-376.00	+9.00	355.00-358.00	+8.00	n. a	-
Singapore B24	190.00-193.00	-8.00	162.00-165.00	+9.00	668.00- 678.00	+48.00
Guangzhou B24	n. a	-	190.00-193.00	-7.00	n. a	-
Zhoushan B24	n. a	-	197.00-200.00	-5.00	n. a	-
Hong Kong B24	180.00-183.00	-14.00	175.00-178.00	+10.00	n. a	-
Korea B30	320.00-323.00	-7.00	265.00-268.00	-20.00	n. a	-
Tokyo B24	n. a	-	270.00-273.00	-5.00	n. a	-

--Note: LSMGO & LSMDO are B100

◎Bio-bunker Prices (\$/mt)						
Port/Location	380cst		VLSFO		LSMGO (LSMDO: Japan)	
	Low - High	Change	Low - High	Change	Low - High	Change
Rotterdam B30	655.00-658.00	-13.00	719.00-722.00	-9.00	1,264.00-1,274.00	-11.00
Zeebrugge B30	773.00-776.00	-15.00	815.00-818.00	-13.00	1,375.00-1,385.00	-16.00
Gibraltar B30	789.00-792.00	-30.00	825.00-828.00	-30.00	n. a	-
Singapore B24	642.00-645.00	-27.00	658.00-661.00	-30.00	1,320.00-1,330.00	+17.00
Guangzhou B24	n. a	-	686.00-689.00	-46.00	n. a	-
Zhoushan B24	n. a	-	693.00-696.00	-44.00	n. a	-
Hong Kong B24	632.00-635.00	-33.00	671.00-674.00	-29.00	n. a	-
Korea B30	772.00-775.00	-26.00	761.00-764.00	-59.00	n. a	-
Tokyo B24	n. a	-	766.00-769.00	-44.00	n. a	-

--Note: LSMGO & LSMDO are B100

◎バイオバンカー

【ロッテルダム】

バイオ燃料不足でプレミアム上昇も需要は弱い

バイオ混合率最大30%のVLSFO(B30-VLSFO)価格はロッテルダム渡しで、FOB ロッテルダム0.5%S重油市況(バージ)に対し249~252ドルのプレミアム。プレミアム幅は先週から29ドル拡大した。UCOME価格高に連動した。固定値換算では、719.00~722.00ドルと同9ドル下落した。原油安による重油市況の下落を受けた。

既報のとおり、中国積みのUCOME価格が1,170ドル付近で推移しており、欧州のバイオ燃料価

格が上昇傾向にある。相場上昇を受け買い控えが見られるとし、需要の弱さを警戒する声が強まっている。市場関係者は、FuelEU Maritimeの開始を受け、多くの売り手が需要は拡大すると予想していたものの、シンガポールとの価格競争力に負け、ロッテルダムでの需要が弱まり在庫が潤沢にあるようだ。4月渡しまでに、在庫消化のため利益度外視で販促を仕掛ける可能性があるとの声も強まっている。

【シンガポール】
買い気の強さと UCOME 価格高でプレミアム拡大

バイオ混合率最大 24%の VLSFO (B24-VLSFO) の市況連動価格は、シンガポール渡しでシンガポール 0.5%S 重油市況比 162~165 ドルのプレミアムと先週から 9 ドル拡大した。買い気の強さを受けた。固定値換算価格は 658.00~661.00 ドルと、同 30 ドル急落した。このところの原油安を受けて重油市況が下落したため。

UCOME 価格高に伴い、このところの B24-VLSFO に対し 160 ドル台半ばのプレミアムで売唱えが提示されたようだ。成約の有無は不明なもの、割高な中国市場を避けシンガポールで調達を試みる中華系船会社が多いようだ。既報のとおり、中国では国内製造の UCOME と輸入 VLSFO をブレンドした製品しか販売出来ず、引き続きシンガポールでのバイオバンカー販売価格が割安になっている。欧州の買い手も、ロッテルダムと比べ約 60 ドル安いシンガポールでバイオバンカーを調達する傾向にあるという。

【韓国】
需要が振るわない

バイオ混合率最大 30%の VLSFO (B30-VLSFO) の市況連動価格は、韓国渡しでシンガポール 0.5%S 重油市況比 265~268 ドルのプレミアムと先週から 20 ドル縮小した。高値警戒感から、買いが減退している。固定値換算価格は 761.00~764.00 ドルと同 59 ドルの大幅下落。このところの原油安を受け、重油市況が下落したことを反映した。バイオバンカー市況は高値警戒感が強く、需要に盛り上がりや欠いている。現代オイルバンクはこのところ国外籍の船社へ 3 月中旬渡しの 1,000 トンを販売している。価格は FOB ベースで同市況対比 200 ドル台半ば~後半のプレミアム。現代オイルバンクは通常、月間 5,000 トンほどの販売を目指しているものの、需要が振るわず、目標販売量には達していないもよう。

◎マーケットニュース
○日本=25 年 1 月の廃食油輸出量 9,884 トン、前年比 9.4%の減少

財務省の統計による 25 年 1 月の廃食油輸出量は 9,884 トンと、前年同月比 9.4%の減少、前月比 2.7%の増加となった。1 月の輸出先で最も多かったのはシンガポールの 4,037 トンで、これは全体の 40.8%を占める。

日本の国別・地域別廃食油輸出量、単月輸出価格の比較

国別・地域別	2025 年 1 月			2024 年 12 月			2024 年 1 月		
	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt
シンガポール	4,037	875	137,550	4,021	779	118,755	6,279	999	143,847
大韓民国	3,135	833	130,936	3,418	818	124,746	3,436	839	120,865
マレーシア	1,565	903	141,962	1,129	844	128,750	440	825	118,881
アメリカ合衆国	706	944	148,395	145	917	139,746			
ポルトガル	210	986	154,974				104	937	134,892
オランダ	139	995	156,477	348	815	124,290			
タイ	60	1,521	239,202	49	1,966	299,776	35	1,779	256,172
中華人民共和国	24	1,968	309,375	40	2,421	369,104	51	2,533	364,808
台湾	4	2,865	450,504	1	2,339	356,589	1	2,409	347,009

インド	4	4,106	645,556	12	3,539	539,542			
ベトナム	1	2,703	425,000	33	2,692	410,471	2	2,855	411,250
ドイツ				227	864	131,760			
英国				197	798	121,617			
ミャンマー				5	4,393	669,800	3	4,464	643,000
香港				1	3,219	490,741			
オーストリア							560	910	131,123
インドネシア							3	5,110	735,926
フランス							0	14,598	2,102,564
総計	9,884	884	138,924	9,625	831	126,760	10,913	949	136,670

日本の国別・地域別廃食油輸入量、単月輸入価格の比較									
国別・地域別	2025年1月			2024年12月			2024年1月		
	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt
マレーシア	261	1,758	276,388	261	1,522	231,988	320	1,215	174,952
台湾	159	1,597	251,162	219	1,583	241,314	252	1,724	248,341
アメリカ合衆国	88	3,190	501,552	1	15,388	2,345,996	27	4,109	591,877
大韓民国	52	1,786	280,848	52	1,779	271,262	36	2,113	304,353
中華人民共和国	35	11,593	1,822,743	82	2,266	345,442	91	2,243	322,996
インド	8	2,719	427,451				3	119,663	17,235,000
ドイツ	2	2,699	424,375				16	3,748	539,815
フランス	1	31,658	4,977,612	0	35,888	5,471,429			
スウェーデン	0	121,296	19,071,429						
ブラジル				0	153,249	23,364,286			
イタリア							0	25,342	3,650,000
総計	605	2,571	404,224	614	1,725	262,956	747	2,228	320,907

出所：財務省・貿易統計

※0の場合は1トン未満

○日本=25年1月のバイオディーゼル輸出量 290トン、前年比 64.9%の減少

財務省の統計による25年1月のバイオディーゼル輸出量は290トンと、前年同月比64.9%減、前月比36%の減少となった。

日本の国別・地域別バイオディーゼル輸出量、単月輸出価格の比較									
国別・地域別	2025年1月			2024年12月			2024年1月		
	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt
スイス	290	980	154,106	454	1,011	154,065	827	1,218	175,446
総計	290	980	154,106	454	1,011	154,065	827	1,218	175,446

日本の国別・地域別バイオディーゼル輸入量、単月輸入価格の比較									
国別・地域別	2025年1月			2024年12月			2024年1月		
	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt	数量 (mt)	ドル/mt	円/mt

英国	0	5,207	818,763						
ドイツ	0	79,688	12,529,412						
フィリピン				14	2,789	425,208			
フランス							16	3,297	474,875
総計	0	7,813	1,228,395	14	2,789	425,208	16	3,297	474,875

出所：財務省・貿易統計

※0の場合は1トン未満

◎お知らせ

OPRA 原則遵守に関する検証報告書の公開

リム情報開発は2024年12月19日、証券監督者国際機構(IOSCO)により定められた石油価格報告機関(PRA)に対する原則の遵守に関しまして、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

<対象レポート>

バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品(Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

○季刊誌『エネルギー通信』第21号発売のお知らせ

リム情報開発は11月20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』第22号を発行しました。今号では、バイオディーゼルや持続可能な航空燃料(SAF)などの次世代燃料に焦点をあて、世界的な状況をまとめました。また、新たなバイオ原料開発の最新事情についても取り上げています。『エネルギー通信』第22号でぜひご覧ください。『エネルギー通信』は、WEBで閲覧いただくことができます。

お申込み・お問い合わせはこちら

URL: <https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter/>

エネルギー通信チーム TEL: 03-3552-2411 / Email: info@rim-intelligence.co.jp

○電力データ CD・2023 年度版の販売開始について

リム情報開発は、電力入札データの2023年度版CDを、7月17日から販売を開始しました。初版となる2014年度版のリリース以来、各方面からご好評をいただいております電力入札データの2023年度版となります。最新版では、2023年4月から2024年3月までの1年間に、全国の公共機関が公募した電力調達について、詳細な情報を提供いたします。2023年度版は、収集件数4,071件(昨年度4,168件)で、うち比較可能なデータは2,058件(同1,000件)です。

※「比較可能データ」：予定供給量、契約電力、契約金額がそろった案件を集計(入札不調、入札条件が不明などの案件は除外)

関連記事

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/data/1777043.html>

お申込みこちらへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contact/form/powerData.html>

◇

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の



転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

- [東京本社] Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415
e-mail: info@rim-intelligence.co.jp
- [シンガポール支局] Tel: (65)-6912-7359
e-mail: lim@rim-intelligence.co.jp
- [北京支社] Tel: (86)10-6498-0455, Fax: (86)10-6428-1725
e-mail: ma@rim-intelligence.co.jp, huo@rim-intelligence.co.jp
- [上海支社] Tel: 86-21-6760-6330/6331, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2025 RIM INTELLIGENCE CO

試読 >

お申し込み >